

はじめに

にもなります。

「このように子どもに接すればいいのかわからない」「子どもの思いを汲み取れない」等、近年の子育て中の親のとまどいは、保育園の保護者にも見られます。私たち保育士は、日々の保育の中で、「よりよい保育とは何か」「子どもにとって、また保護者にとって、いま何が保育の中で必要なか」を考えるとき、「家族支援」の重要性を強く感じています。

子どもの権利条約、そして家族援助論を紐解いて学び合うところから始まった私たちの勉強会では、「子どもの健全な心身の発達をはかる」とともに、「子育て支援」を進めることは、「保育所保育指針」にもうたわれている私たち保育士の大きな課題ととらえました。

この本では、保護者が集つ場である「クラス懇談会」にレポートを当てました。これまで、保育士主導になりがちで、保護者は受け身のことが多かった懇談会を、保護者が主体的に子育てを語り合う場にするのができれば、保護者自身が子育てを振り返り、気づきや子育てのヒントを得ることができるようではないかと考えました。また、懇談会で保育士と保護者、そして保護者どうしが子どもの育ちをともに考え合うことは、子どもと一緒に育てていくという協力関係を築く一助

そこで、私たちの研究会は、同様のことをすでに小学校の保護者会で実践されていた八巻寛治先生（仙台市立小学校教諭）から、カウンセリングの技法のひとつである「構成的グループエンカウンター」を学び、保育園の懇談会に取り入れました。さらに、「来てよかった、また来たいと思える懇談会」をテーマにし、「親どうし、親と保育士が出会い、よりよい関係を築く中で、子育てを考え合う」を合言葉に、仙台市の保育士を対象に拡大勉強会を開き、実践を広げてきました。

本書には、私たちがこれまで学んできたこと、また保育園で実践してきたことを、できるだけ具体的にまとめました。まだまだ十分ではありませんが、保育に携わるみなさんが懇談会を進める際に、少しでも参考になればと願っています。

また、子どもたちを保育する中で、保護者の方々と一緒に考え合いたいこと、保護者が子育てで悩んでいることなど、その時々ニーズに合わせて懇談会を工夫するときのヒントにしたいだけだと思います。

保育研究会 HEART & EYE

代表 大窪 裕喜恵

*なお、「保育園」「保育所」の呼称は地域によってさまざまですが、本書では絵本や歌によく出てくる「保育園」で統一しました。